



## 長比城・須川山砦のみどころ

長比城は西と東の曲輪から成り立っており、西の曲輪は東西約50m、南北最長約30mで周囲に高く厚い土塁を巡らし、東側にくい違い虎口を設けています。東の曲輪は西側より一回り大きく、周辺に土塁を巡らせて、堀切で遮断しています。北、南、西の3方向に虎口を有し、西側と南側は内柵形状の虎口を、北側にはくい違い虎口を採用しています。また、東側に周囲よりも高く分厚い土塁を設けています。さらに、外柵形状虎口の外に高く分厚い土塁を設けることで、遮断性を高めています。

長比城・須川山砦 上空より



### 敵状堅堀群

斜面での敵の移動を阻むために設けられる施設で、須川山砦の北側尾根に堅堀が複数本確認できます。



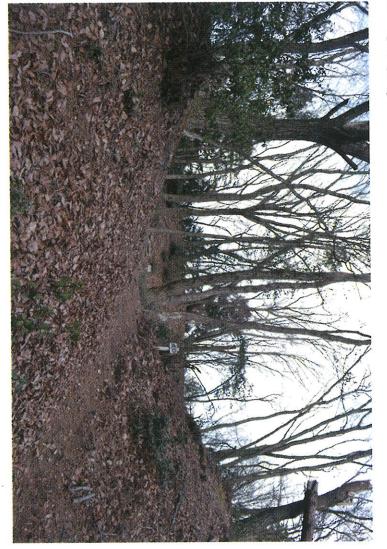
### 外柵形状虎口

土塁の開口部の前に一段低い土塁を設けることによって、外柵形状虎口を形成しています。さらに、外柵形状虎口の外に高く分厚い土塁を設けることで、遮断性を高めています。



### 平入り虎口

平入り虎口を採用していますが、虎口へ進入路は直進ではなく、虎口手前で左に折れて進入させることにより、横矢がかかる仕組みになっています。さらに、虎口の前に堅堀を2本設けることで敵の侵入ルートを限定させ、遮断性を高めています。



### くい違い虎口

ふたつの土塁をくい違い状に築くことで曲がり角を作り、敵の侵入を阻む構造になっています。長比城のこの虎口はよりしっかりと敵の侵入を阻むために、曲がり角をふたつ設けている構造になっています。より洗練された虎口になっています。



### 内柵形状虎口

曲輪の内側を柵形に掘り下げるによつて、内柵形状の虎口を形成しています。さらに防御性を高めるため、虎口の外側に堀切を設けています。



作図：高田 徹氏

